英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
廃炉加速化研究プログラム（国内研究）
事後評価総合所見

研究課題名：発電所隣接サイト外領域における放射性核種の環境動態特性に基づくサイト内放射性核種インベントリ評価に関する研究

代表研究者（研究機関名）：飯島　和毅（日本原子力研究開発機構）

再委託先研究責任者（研究機関名）：大村　嘉人（国立科学博物館）

再委託先研究責任者（研究機関名）：佐々木隆之（京都大学）

再委託先研究責任者（研究機関名）：難波　謙二（福島大学）

研究期間及び研究費：平成２７年度～平成２９年度（３年計画）　　７６百万円

項 目	要　　約
１．研究の概要	福島第一原子力発電所（1F）の廃炉作業を進める際にガレキ撤去、表土除去、伐採等で発生する多種多様な固体廃棄物について、サイト内放射性核種の面的分布およびその時間変化を考慮した定量的なインベントリ評価のため、1Fサイト外領域において、原子炉から放出された放射性核種を含む空気（放射性プルーム）が風によって運ばれた軌跡上の複数地点で、核種の濃度、表土中・樹木中の分布状況、飛散物の化学形態等を系統的に評価し、これらの特性の距離依存性に基づいてサイト内の分布状況を推定するとともに、環境媒体中での動態に基づき時間依存性を考慮した、核種インベントリ評価手法の確立を目的とし、以下の研究開発を行う。 １）地衣類・表土中放射性核種の濃度・化学形態分布の距離依存性評価 ２）表土深部・樹木内部における放射性核種の濃度分布状況把握と移行挙動評価 ３）サイト外における放射性核種動態特性のサイト内領域への外挿手法の検討と評価
２．総合評価　A	・福島第一原子力発電所のサイト内起源の核種インベントリを定量的に評価し、グローバルフォールアウトと分離させるなど、成果が得られている。ここで得られた良いデータは、今後も継続的に収集すると共に、論文等により積極的に発表して欲しい。
	Ｓ）極めて優れた成果があげられている Ａ）優れた成果があげられている Ｂ）一部を除き、相応の成果があげられている Ｃ）部分的な成果に留まっている Ｄ）成果がほとんどあげられていない